

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 139号

## 心を一つにして求めるなら

マタイ福音書 18章19節

木部 安来



アメリカからインドの宣教師として遣わされたスタンレー・ジョーンズが日本にて1955年2月に第1回の日本アシュラムを始めて下さってから50年、本年は日本アシュラム50周年記念アシュラムを開催することになりました。

記念アシュラムが祝福され、主が崇められるために一つの信仰と、一つの聖餐による、言葉だけではなく眼に見える愛の実行と一致で祈りと奉仕が祝福されて、主に栄えを帰したいと切願する者であります。

アシュラムはの5原則は1、キリストへの明け渡し（開心）2、御言葉への静聴と立証（静聴）3、御霊の啓導と充滿（充滿）4、神の国の体験と献身（献身）5、教会への奉仕と伝道（伝道）ですが、それら全てを総括し満たすものは祈祷です。故にアシュラムは『祈祷運動』であります。

私たちがいかに祈るかを知り実行することが問われます。クリスチャンは祈祷の重要なことを絶えず自覚し、祈りの実践の怠慢を常に反省し忸怩たる思いで日々悔い改めなければなりません。祈りの不足は神の働きを止めること、聖霊不足による貧血症になるからです。祈ることは生活全体を高揚させます。

私の実験の経験から祈るか祈らないかで私の生活が良くも、悪くもなることに気付いています。祈りの生活が向上すると、私の生活全体が、それに伴って向上します。祈りに失敗すると生活の全ての調子が変調し、狂い、弱体化します。祈りによって霊的生活の営みと流れが整えられ順調になります。祈祷は人生のカリキュラムの必須課題です。祈りなくしては、クリスチャン生活の適切な諸問題は解決と勝利がありません。

主イエスはルカ11章8～9節『求めなさい』11節『…天の父は求める者に聖霊を与えてくださる』18章7節『…神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのため裁きをほうっておかない』。

マタイ18章19節以下では、『また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をひとつにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる』。共に祈祷できる恵みを感謝。

(日本ホーリネス 元住吉キリスト教会牧師)

## 想 霊

### 「主が与える平安」

ヨハネ一四の二七  
更生教会牧師 原田 謙



「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおしけるな」(ヨハネ一四章二七節)。

第三六回城北アシュラムの主題は、「主が与える平安」であり、冒頭の聖書が主題聖句でした。これを見る時に、トルストイの「戦争と平和」を思い起し、戦争のない状態こそ平安である、と連想しないでしょいか。確かに戦争のない状態は素晴らしいことで、聖書の見地から見ても価値あることです。(マタイ五章九節、ルカ二章一四節等参照)。だがここで言う、「主が与える平安」とは、単に戦争のない状態と云うことを言っているわけではありません。

ところで、神は色々に表現されます。天地創造の神、全知全能の神、愛なる神、義なる神等枚挙にいとま

がありません。しかし神は同時に、「平和の神」(ロマ一五章三三節)であり、神の御子イエス・キリストは、「平和の君」(イザヤ九章六節)「平和の主」(テサロニサ二章一六節)です。その神との関係が保たれている時、人間は平安でありましたが、人間の罪が神との平和を破壊してしまいました。すなわち、アダムとエバの罪が人類に浸透し、その子カインが弟のアベルを殺すに到りました。扇の要が壊れると、全体がバラバラになるように、神との関係が壊れますと、人間関係まで壊れてしまったのです。しかし、そのような人間に、神の御子イエス・キリストは、和解の福音をもたらして下さいました。(エペソ二章一四〜一七節)。そして人間同士お互いに、平安を祈り合い、平安の挨拶をするようにと、イエスは教えられたのです。(マタイ一〇章一二節)。

さて、ヨハネ一四〜一六章は、イエスの告別説教と云われます。イエスが十字架にかかれる前日、そして間も無く天にお帰りになる時に語られたのです。それ故、イエスにとって、残してゆく弟子たちのことは、気掛かりでなりません。そのような弟子達を気遣い、慮ばかっつての説教でした。それ故、イエスの説教の冒頭は、「あなたがたは、心を騒がせないがよい」であり(一四章

一節)、その説教の最後の締め括りは、「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(一六章三三節)でした。そしてその間にも、「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」(一四章一八節)と言われました。そして主題聖句もそのような一連の流れの中で、お語りになったのです。

話は変わりますが、ヨハネの聖霊観には独特なものがあります。しかもそれは、一四〜一六章の告別説教に集中しているのです。それはパラクレートスと云われ、「助け主」とか「弁護者」とかに訳されています。実はこの告別説教以外にも、もう一ヶ所出て来ます。それはヨハネ二章一節です。そこでは、「父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」と述べられます。実にイエス・キリスト御自身が、「助け主」なのです。そのイエスが天に帰られるに当り、「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」と云われ、その具体的なこととして更に、「父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である」(一四章一六〜一七節)と云われました。実に助け主なる聖霊こそ、復活の主の霊で、イエスが天にお帰

りになるに当って云われた、「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ二八章二〇節)と云うことの内実です。それですから、別の助け主なる聖霊によって生かされる時、「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」(ヘブル一三章八節)主と共に今の時代にも歩むことが出来るのです。

聖書によれば、人間はどのようなものとして造られたのでしょうか。人は「神のかたち」に創造され、主なる神から「命の息」を吹き込まれたのです。パウロはキリスト者を、「聖霊の宮」(コリント一三章一六節)と云っています。それ故、助け主なる聖霊を心の中に豊かに宿らせる時に、周囲の環境や状況を越えて、「主が与える平安」を頂くことが出来るのです。(聖書は口語訳)



証立 「祈りの訓練」

若林 節子



「人の意志が実現しようと決めなければ、決して実現されないであろう多くの事柄が、人の意志にかかって未定のままになっていますが、それと同じように私たちが、神と協力して実現しなければ、決して実現されないであろう多くの事柄が、祈るか、祈らないかにかかっています。私たちが、祈りの中に入るとき、この自由と可能性の世界に入っていくのです。」

『いかに祈るか』E・スタンレー・ジョンズ著より)

私の祈りの日課は、この書を持って二十余年になります。祈りは訓練されなければ決して悟る世界に到りません。

人は信仰することによって、神との正しいまじわりに入ることが出来ます。

あらゆる宗教の世界で、この正しい交わりを、祈りによって悟ることが、真理です。

みことば、黙示録一章一八節、

「恐れるな。わたしは最初の者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持っている。」

私は元浄土宗の尼僧であった。尼僧生活十二年の時、日本国が敗戦して戦争をしない国に憲法が変えられた。私は信じている佛教に疑問を持ちました。一九六四年四月九日西宮市聖和女子大学にて、スタンレー博士の執行されていた、アシユラムに参加しました。

佛教と基督教の相違点を、あげるなら、佛教は死の問題をキリスト教は生の問題を究めて行く教えであるうと思えます。そして佛教は死んで成仏する信仰を教えます。キリスト教は、生まれて、生きて行く愛の教えを、十字架の信仰を教えます。

私たちは、信仰することによって、人間の最高の生き方を教えられ、自分の精神的安定とめぐまれた感謝の生活をする事が出来ます。信すること、信念を持つことは、人間生活で、心の安定を計る大切な要素です。それは人間はすべての事に対して正しい道と生きる力が与えられる宗教から導かれることが間違いなく正しいからです。

信仰は自分自身の生き方を正しく定めるために必要な寄りどころとなる精神の有様をなす心の決め方を教えます。

人間生活の善悪はこの決め方で行動します。

アシユラムの祈りの訓練は正しい信仰を教えます。これは祈りによって教えられる、神の霊によります。アシユラムは、この霊の導きを求め信仰生活に安心と喜びを受けることが出来ます。

第三九回九州アシユラム報告

岡山 敦彦



九州アシユラムは昨年の九月十九日、二十日の両日に福岡県宗像市にあるカトリックの福岡黙想の家で行なわれました。宗像市は福岡市と北九州市のちょうど中間点にあり、集まり易い場所です。またここ数年、

いつも私たちが貸切りで使用させていたでいます。

アシユラム開催にあたっていつも心掛けることは、まず静かな場所です静思の時を確保することが出来るか否かであります。その点、黙想の家はアシユラムには最適の場所であり、主に感謝しています。

今回のアシユラムは当初参加者が少なく、どうなることかと心配しておりましたが、締切り近くなって参加者が次々と与えられ、二一名の祈りの勇士が集まりました。初参加の方も二名あり、大きな励みとなりました。

今年、助言者に川野直入先生をお招き致しました。というよりも、先生は九州アシユラムの当初からの参加者でありまた元委員長として指導して下さった方でありました。先生は、香住ヶ丘バプテスト教会のみぎわ伝道所の牧師をしておられ現在七四歳にして、開拓伝道に励んでおられます。また福岡市に隣接する久山町にある重度障害者施設「久山療育園」の創設に中心的メンバーとして活躍され、今なお理事長としての重責を続けておられます。また九州バプテスト神学校の創設にも関わり、常任理事として伝道者養成にも当たっておられます。とても、物静かな先生ではありますが、今なお自分に与えられた主からの使命に生き

ておられる方があります。先生が献身された時、長女が重い病気にかかれ、大変なご苦労をしながら、牧師としての働きをこれまで続けてこられました。聞く私たちには、大きな感動とチャレンジを与えられました。

いつも書くことですが、アシラムの醍醐味は連鎖祈禱にあると思います。夜の九時から翌朝の五時まで、祈りが積み重ねられます。そして自分の祈りの課題をノートに書き記します。またそれを見て、多くの方がとりなしの祈りをしてくださいます。背後で多くの方が祈ってください。それは大きな力であります。

今年も四十回目となります。大きな節目として素晴らしいアシラムになることを祈っています。九月十九日、二十日の両日、いつもの福岡黙想の家で行います。

最後に全国の持友に祈りをお願いです。委員長の鍋倉勲牧師の奥様夏海姉が胃がんで、二月中に手術をされます。手術の成功と癒しのために祈りください。

第九回富山アシラム報告

本多 英一郎

回を重ねて富山アシラムは九回目を開催することが出来ました。少人数でも継続することが大切であり



ましよう。二〇〇四年九月二三日、二四日、常宿としているインテック大山研修センター(企業の研修所)で一五名のアシラム(「アシラムをする人」という私の造語です)が集い、みことばを通して主の御臨在を体験致しました。日本キリスト教団、メノナイトブレザレン、無教会集会、単立、バプテテストからの参加がありました。初日、受付のところにいたら、一人の婦人が「はじめの参加です」といって玄関に入って来られました。主催者としては、「この姉妹が、帰られる時には、参加して本当に良かったと心満たされる集会となるように」と切に祈られました。

今回の助言者は日本キリスト教団坂城栄光教会の赤松敬明牧師でした。「まばたきの詩人」といわれた水野源三さんがおられた教会に仕えておられた先生です。長年勤務した製紙会社を退職後、六〇歳の時牧会に立たれたとのこと。

今回の主題は「わたしについて来なさい(マルコ一・一六)」でした。開会礼拝で赤松師は御自分が主に従った時に起こった様々の出来事を通して、主について行く者には必ず主が道を備えて下さり、宣教の道が開かれて行くことを証して下さいました。三回にわたる静聴の時には、ヨハネによる福音書一四、一五、一六章を読み、それぞれのファミリーで静聴の恵みを証しました。参加者の平均年齢が六〇歳を越えていたせいか「老後の心配」が共通の課題であったようですが、「わたしの父の家に住む所がたくさんある」「あなたをわたしのものに迎える」といって下さるイエス様のおことばを心から信じて、今与えられている日々を真剣に生きたいと思わせられました。

この終わりの時代、世に在ってキリスト者として生きる時に、内にも外にも激しい戦いがあります。信仰がさびつき、おとろえる時もあります。しかしイエス様につながっておれば、いつも手入れして下さって豊かな実を結ぶことが出来るのですか

ら、イエス様から決して離れないと云う決意を新たにさせられた今回のアシラムでした。「わたしについて来なさい」「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」といって下さるイエス様を心から愛し、又隣人に福音の恵みを証ししつつ歩みたいと願いつつ会場をあとにしました。

各地区アシラム予告

●第43回関東アシラム

と き '05年9月19(月) から21

(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 小島 十二師

●第39回関西アシラム

と き '05年10月9(日) から10

(月)

ところ 関西学院大学・千刈セミ

ナーハウス

●第40回九州アシラム

と き '05年9月19(月) から20

(火)

ところ カトリック福岡黙想の家

各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.139をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10  
碑文谷教会会館付

日本クリスチャン・アシラム連盟

振替口座 東京〇一〇〇一四四五八

理事長 大石嗣郎

編集人 横山義孝

定価 一部60円 780円